へ 5
2851

2851

文武昊茶釜序

文ハ道を貴き武ハ禍乱を宥る乃
倡ふ〳〵遂ふ大堀を和するの宏之
世〻〳〵上ふ鶴林堀昊のさて〻殿様寺
ふ和尚七代〻〻いき通〻の義を
あり名を宵宿〻〻ひて頂学一山よ
茶姑者を〻〻学ふ波茶を去の恩嶽
〻〻〻〻或時茶名を傳させけるふ

姿のあらく如来上りて経をあらひ垢
をすすぎ給ふ海あるときのけ形
や十羅刹のかゝれたの繋を化して
釜の湯を字窟に追うみ出の
ちゝ迦不信の者に第子の山のいもを
鑊にぬきの雀八幡宮の黄金
忽落葉に葉に雲の岩よりふれ出る
うな天工自然也さる葉もあり

のもゝ紅葉の葉あり色あり
ゆ紅ぬ梅は釜八湯とも色に炭せき
迦ゝもさめに常よみ武久ゝ
滝星の冥ゝさてゝ釜乃
名八宮ゝつ迦の久ゝ字宮ゝ堂の
しみおほうあゝに鳴を高ゝ
そうり巻ゝ堂の色ゝうゝいく
艶隆しゝ孫よ狸の性ゝあら八

小坊主見安く方丈にまうす和尚ハ
すぐさま鋏と剃刀をさゝ世て以て
剃し給ひぬさ程に宇寉ハ見とゞめ
らむとするを惜りて暇を乞て
立さらむとする名僧老翁の情をつく
すに至り墨衣を屋根にかけ瓢を携て
覚束なく飛行し庭前像子山海の
風景を観りて元来無上のゑん

目出度浮世肝を消さす時をうつして
又佛在世の祢と言し霊鷲山の
従法双林化入滅まうしく
あるハ世尊涅槃の洞を蔵せむ
御座やらとの庭上にを給彰
和服茶釜毛の生えた不潔ハ此時
よりふなる印し元禄の頃
大樹公台幕にて守寉茶釜蔵物也

ふしあそこ経て今ゝ歳暮の什賛ちり
せよありうくゝもかゝしけ為くも又武夏の名ふ
覚させ給ふものなりしけ集の名を武蔵
猫薬師と称せるてふ八薬をる弘ふ所を
を氣凍くゝて紙地をうち　羽息を
つくくゝ思ふの侘をことなり

文政辰年　大崔菴塊公羽
春政寿

武蔵猫薬師
そいこの山ふ御坊　七宅子
ひくけきえせく朝の沢の鶴　鶴雄
はてさく霧む山ふ　春子
ほ菓はいとふ松つら蛙　春子
うをゆく七九銭　梅樓
住のひのあるとふ蛙の背　桃子
この鹿きさえる舟のもつ　来道

夢の面影あるさまにて　乙人
ゆるぶ俵の結くくり海の人　秋下
さらつきくれひ〻する妹が牛　鶴雄
弱瓶の縄も手ぬぐせぬ伏　晩翠
菖の根ぬらふ風ふきいとて　末道
めらめもしをまつの氣よ来　桃雪
一ふしよりかみむすとをさみ　梅樹
源川の和も茶はは八月　春雪

ふ雲ふ有ゆ梅ふ　晩翠
和上人のまゆ　乙人
うつ〻ふき様ぬら　秋下
茶売さ〻も雨　鶴雄
矢右ぬ中て　桃雪
むろ川源ぬ　末道
杜ふ尾二八八咲　春雪
浮世小路を通すかるぬら　梅樹

京いおとゝ思いれさこののそら霧て　乙人
酬スとテ浸ひ[illegible]の[illegible]るはのそれ　魂祭
はる幸海の近宮はは[illegible]も止ま[illegible]る　鶴雄
砂利く石ま[illegible]る梅ちも　秋ト
梅の手れ上手ま貴老ぬう英　梅樹
送りむうひ[illegible]蘭屋子の宮　桃雪
自新の志海事り[illegible]ケ麗　東道
ま[illegible]ろさみのあ[illegible]ちのよ新　乙人

小山れ光り下里秋世ますま　魂祭
れ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]ハ[illegible]ま[illegible]ま[illegible]　春[illegible]
秋時の[illegible]ま[illegible]ま[illegible]屋敷　秋ト
つ徒嘯秋し[illegible]ま[illegible]ま[illegible]の　東道
[illegible]ま札ハ去[illegible]の[illegible]ま[illegible]て　桃雪
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ける[illegible]　執筆

去て[illegible]泥[illegible]ま[illegible]
六の宮式日毎に[illegible]

謂る宅業の高きも尓尊し
予ゆ虎ハ萬年の翁わ東
花楽るハ至り集ハ百年
三五十日にしても雛数ハ
喜びゑ孫あ沢豊翁
喜祝の婦人このめとよ
ことしもまたかくして小
翁数えて申す

君子の風也

东風とつや子芳しら美しら　高木 可月

雛守て大和山を盤り行　大道寺 百羅

鹿と形流る高き春のみ　粕谷 白朶

色のゆり水楽む入江かな　岩田 つかさ

ぬるやまの麓をつたる乃山　鈴木 己有

草ハよきみを申そのつまみ　加藤 久波倍

降出る道ハ申して春のゆき　間宮 二楓

蕗原や山のとくらの明けて来　熊澤　麻埜

はるかくと雉つくるひやあり山　中邑　花遊

ゆくり迎ふ河やの月夜のつゝみ　肥田　五青

西方を常せさせ給ふ御郷に入るを

まるさととんおの紙芝石農家

あおきハ芋するのゝふゝて学ぶ亜

ゆゝしく山雲を誠るるかいなゝいく

せ覆と河内若へて稔お徒後

老ハ法とふ古信あり名ゝあるゝ

さきと四方の冷をうひうまいかめ

ゝくもきゝ川よ入

柳ゝとまあるやゝ江口の神ゝすみ

生墓や蓮よさハる梅ゝ雲

新芳を山雲ゝ修ゝうゝ

雪たむと降ゝ志つゝよゝて拾ハ

右　西川　芝石

油絨のうゑ〜屋の中く　渡邊　鴉聞

稲妻よりそるや伊吹のちきれ雲　飯沼　一の雪

芋生て蕣ハむをちらよりく　佐藤　千雇

寒天雪中東行吟二

夕よとゝ雲もや雪ゝ宇治の山　寺西　我竟

旅寝して呂の日ハなゝ富士の山　同

己ゝ尼も己ゝそらゝ欲尼拂ひ　櫻木　七馬

拝ゝさく足もとゝ柳の流まゝ　種埜　静山

姑ゝる菜ハゝゝ多ゝ洗ひ　奥邑　亜溪

屯滿ハゝも庶ゝる秋ゝき　福田　申齋

川蛟乃きゝよ深ゝや秋雨　岡谷　莒明

油ゝよ夜のゆゝく月ゝ　酒井　芦丈

洗ゝ河ゝ清ゝ桃のゝれ　邑瀬　民情

柳ゝ道二筋の月ゝ雨ゝ　平埜　紫井

雲ゝ月いさゝ夕ゝ系ゝ世界　谷津　一暁

ゝ丁の流ゝ川一夢ゝ軒の月　小川　克化

年炎涉て牛の雪ふる巨燈　高田　虎男

むらゝ面のむらゝまさりの色　鈴木　五老

都より入れ一百八つの寺をへ巡りて

舟をよする八むらの山橋

はるゝ蔦るあらけしなり

郭公又呼ぶ　るるもあるる亀　中邑　河石

愛宕の梅乃先あり雄の山　松井　乙二

浦人乃大幸きそ面寿乃鈴　金森　竹兮

面雪や笠沖部八景のさゝある　佐藤　楚道

雉の声ゝのふあるゝ中ゝなり　谷崎　桃李

うめう香ゝ鄙先富もゝ来るゆ家　名倉　菜圃

子のゝして梅ある家ゝ俗ゝなり　木邑　東渕

年八美中くふ起上り小法師　井上　元美

乳鉢色の酒を記きせ妻の子　成田　素汀

急するや雪ふくゝ猫ゝ屋の猫　中邑　狸玉

面ゝのこゝゝ活る梅の郎　本部　紫黒

日を西よりけく高ようきぬるかな　山中　鳩三

芝くこほ弦神ぬり雪の雪　三尾　道平

雪深きるのメうを思ひさらの

うりよる雪のくと柳ゑ

秋のくく猛のこの樓うり

雪をとうくうちまく雪雲

屋よ歩く紙をうくく

さく雪雪ぬもも夜ぬけ

雪うゆら出とするふ面をぬく

なるいまる来ら民ぬり火弛き

のかるかをうちえ雪を

春面を眠り連ちめけ堂

ふ弦も五十年の業夜の夢

を踏ふなるへくさまちよ

さめるふよおの色ぬ美八ま美ぬ

右

夜藤　楚山

ゐい水ふ菖の咲う日和の事　尾張　由良

ふ脇と彩けと年の梅乃色　早川　暁底

むらさきのはとと申ひ寿ひ風　佐藤　延枝

ゆるさハ廿の藤るの欲ゆらの宮心　戝邑　冠市

見覚のとき宮ふきや名ひ名ひ　平井　蕉兮

ふきハひとつ空汐干けらやこ彩く　高嶋　栗水

水るの座へも彩乃彩ロの字　同

山さらや芝城くくも寿きめる　吉澤　平六

彩色やたの河うら風う東日　津金　牡丹花

彩う多や芝城もる井ふる　同

ちる梅も咲うめも与紅白ひ乳　土屋　梅嶺

中紀屋り彩くや雪梅のむる菖　神野　呉山

狩ひくとるる蝶の寿くく水　佐藤　心鳳

神前ふ裏形の心をすませ勝年の

月形を明るとく喜

口筆乃四ふ〻嘯の〻る　囲田　月鈞

とる事くるハ色ふ〳〵その月　横井　嶺臺
時つくる秋時時時時る　臼井　月栖
まくらに所望の小子ゆ育ける　吉田　杜牧
住吉ハすみゝ記甚の自おゝ　笹岡　巨窪
陽光の廣野ゆ雲のあひま小冨　邑木　虎有
うゝ山ハ尾もの〳〵よのくれ　横江　有車
玄霊の色〳〵ゆ色〳〵猫ゆ　森　守栖
夏の月〳〵〳〵さのあ事みゆ　早川　鬼十

年ふ〳〵もるゆハ〳〵ふを春ゆの勢　中嶋　霞亭
笑ふ〳〵出ち〳〵山ゆ〳〵きゆ　椙山　の祝
ゆふと〳〵〳〵ゆの蕎ハきのあれ　埜崎　其夕
ゆよ自ゆ事を浮ゆ〳〵ゆ蛙　原　湖有
夢ゆ見ゆよなり明ゆ〳〵の勢　荒川　延年
ゆる雪ゆ四ゆ〳〵四ゆ水ゆ青　今井　徐道
老ぬ色を人ゆ目ゆ〳〵徐ゆ事　大嶋　蘭水
ゆ色ひゆの菓ゆ小事を欲　永田　露情

ひとえはさらぬ袖なりけり　福寺　都堂

草の実の袖よりこぼるる小萩哉　寺西　卜大

葉ぬけもやうとひよもぎの露　永平　雨光

あるの色ちるもみぢ葉　今井　龍三

懷へうとあふきもむ扇の影　邑上　極庄

もろ〳〵見えぬ梅よ案をしかりけり　山田　雖乙

三井ふ堂にてるふ湖上の月きを等ふ

さて波乃原やてる波見　岩　小立原　八花

波の中〳〵あと等〳〵まるれ　寺西　履卜

書〳〵る宮ゆいく代の清海誠　高木　庫十

夢ふ記置ゆ久をいの絵とかと〳〵けふ

もゆ〳〵もと不口物俊の信秋家

と〳〵のうちよ来られの鶴の面中みゆ　棚橋　五喬

大宮の面〳〵ふ強るやかやてきま　小山　宏学

青宮物生ゆてくろを家ゆしく　野呂瀬　桃鳥

波苔うくゆかゆふ物ても鶴の色　大道寺　輦路

夏とふかうえうるてあさひ山　津金　嵐燈

まく麓ゆく宮まつそうり也　中邑　機山

茅代の世ふり身なる稲の花　都築　市朝

うきすをふるうをこつの釣　渡辺　春年

中ふうなの茅うも薬ふえゆるふり　土肥　大道

しをうをや小河をやるる葉毎　同

雀子の引うをみをむさかり　正木　鳥貢

神風や志ようの菓ゑふ稲　尤山　来道

西ふうう暮ひうるれ　水埜　五雲

秋ふ秋茅撰也やかきます　五味　瀾古

風呂吹や外ハあるのあ一豆　山口　三津名

小河もまる二ヶ茅や浦の梅　酒井　珉古

神去や雲ハ中ふりまいとの　吉澤　東雀

久屋の傷ふるくせうめうれ　青埜　太節

屋蘇乃醉やるや鶯みのるん　飯田　篤老

傷ふうるく宿ふとまる梅の毛　脇　蒼〻

子供等をとく育るとて乃風　松尾　龍斗

子供の風をつ結ぶ東小乃乃　天埜　野丈

湖乃水撈らけて吟ふ八つ　井田　雀雄

雑巾お軍の蕉吟の神蕉り　後藤　梅桂

きを柳の枝をもきを延ぶ乃　河内　郎斗

ぬ〜らひよ瓢箪小おきぬ　笠原　歌麿

きてあけてそそやお小夏の石あ子　森　羽雪

埋を波濤〜孫宮の乃〜氣　安藤　天鶏

らものめくや一むら〜の山さら　西邑　樂山

実〜き雄や毎夏の菴乃窓　壁崎　野白

むくぬき乃ゆ〜月ゆ成ふ乃　粕谷　米丈

百雄の子八むてるも四ら忘弐　萩野　花英

分乃ら人波侍走八神く芒ゆ　同

何ゆ毛ま〜孫〜ゆ八初ゆ〜　永井　泥雪

八童雲む中ゆ滝乃ら入るの乃　竹内　澤麿

雄ゆきぬ人行めそゆるも半川　寺尾　茂龍

生絃ゝも〳〵うゝの佛哉　千邑　蕉門

ゝの京や雲ハ月をまをしりの　吉澤　東雀

栄の戸ハ月をまゝけて神さゝら　安井　楚角

呂仏や雪ふる夢ふつゝり　小堀　馬蠅

うゝ〳〵ハ月也ゝ乃ゝゝゝゝ　松波　一聲

実〳〵きゝやゝ歌〳〵ゝ哉ゝ　岡本　青仝

ちるゝや〳〵山を奥這入　山内　旭臺

花活るゝゝゝゝゝ郎　高木　郎雪

ゝ冥ゝて犯縄を叩きゝゝ　知久　蘭馨

蔓ゝの妻ゝゝ素ゝ絃ゝん家　佐久間　濫竿

ゝゝゝ乃影ゝ素のゝゝ中　後藤　蘆角

ゝゝゝゝゝゝゝゝまてゝゝゝ　後藤　菊児

孤蝶夫ゝる侍の砂須ゝ蔓を

むゝゝ実母のゝ鬼ゝつりせ〳〵姑

関ゝゝ〳〵以同ゝ勉ゝゝ家の家　菜木　ゝ固

ゝゝゝゝの宮記ゝゝゝゝゝ　中田　井梧

行雲の景ハ老ふ[illegible]

本間 松江

あハ雪さよ皆うちうけ浦の梅

邑井 芙宥

ふるさとの家ふたゝび新しき

荒川 里春

ゑる前れつゝぬハ[illegible]の海

坂 湖旦

雪の有もまた丁のくれ[illegible]さす

大井 其柏

月みてる家葉れ[illegible]小石塔

鈴木 乙人

雪塔の白ハ柳の口あ[illegible]

笠間 半隣

山ゝや勝[illegible]家ゆ[illegible]ゆ[illegible]

伊藤 而后

[illegible]ら色稲ゝ[illegible]もき[illegible]

岡田 梅南

灌仏ハ世ハとし[illegible]ふ[illegible]る也

西邑 野乗

雪形の大門長[illegible]苔乃[illegible]

服部 棋渕

いろ[illegible]ぬ松ハ[illegible]ハ[illegible]

鬼頭 竹山

[illegible]ゝ[illegible]せ[illegible]

柴田 君僊

[illegible]

中邑 只白

妻風ハ山[illegible]

西郷 三樂

[illegible]

平岩 暮三

夏の月大きゝまるく富る人　澤田　劉香

遠舟ハまさおよりゝ石落のむ　圓峯　寒窓

小ぶゝ白ハ舟ハくまよりゝ　瀧川　可桃

菓の味を蹴ゝ八帰ゝ雲　磯埜　竹角

ゝゝ風ふきゝ山ふもとゝ月　千邑　左子

きゝゝきゝ郭のあやみとゝふり柳　水埜　左溪

湖ハ波黄ふ月ハ　井田　達旨

大名の市ふすゝ郭ゝゝ　小木森　省吾

○

ゝゝ舟の東風よまわせゝ　藤岡　西柳女

蒲ふよ芳のゝゝく沢菜黄菖蒲　島木　冥子女

松なる時ふ山の雲ふる　肥田　冥子女

ゝゝ月ハ月ゝ月ふ　飯沼　李蕉女

今ゝゝ舟の笠ゝ月さの星　山中　千代尼

山ふゝゝゝゝゝゝ世ふ木ゝ　村木　巴丸女

芳の葉乃廣きる夏ふ月の世ゝ　奥邑　志ゝ女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東條 [illegible]

大塚 [illegible]

同宮 [illegible]

澤田 [illegible]

田結 [illegible]

松井 [illegible]

市原 [illegible]

文武具茶釜終

跋

武田氏[illegible]武具[illegible]

農商の[illegible]安[illegible]美濃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東照神樂の[illegible]

張母先一代大祭祀ヲ主ル
事ヲ乱ハ多我久一冊の懺さま
ヲ云素平ハ了白平ヲ書ル
ヲ理

蒼雪而后

張府来名衙竹醉軒蔵刻